

10. 自然現象

10-2. 自然現象の語彙

トイトイ toyttoy 土

レラ réra 風

ツプ cup 太陽 (チプ cip 船)

アトウイ atuy 海。アトウイ カ タ ポンイセポ atuy ka ta pon isepo 海が荒れて白兔のようになること。テレケ terke ったら跳ねること。

[佐伯ハマ氏]

10-4-1. コタンの概況

佐伯はま氏は大正3年新平賀(福満)生まれ。父親が子供の頃、明治の大川の水害のとき、4km上流の平賀から左岸の高台に移住して新平賀村ができた。富川は昔、沙流太と言った。貫気別のヌクキ nukki は汚い川のこと。きっと川汚れているんでないか。

ウヨブペコタン uyoppe kotan には平賀姓の人がいる。父の母のノソテカ nosoteka の弟は平賀姓であった。

福満にはアイヌの家は四十何軒あった。誰が住んでいたか、昔のことは弟のツヨミの方がよく知っている。うちの隣は鍋沢マツさんという人だった。ビラカ、ニナツミ、シウンコツから来た人が集まっていた。だから、鳩沢、平賀という名字の人もいた。鍋沢は2、3軒のみだった。49才で夫が亡くなって富川に移住。それまでは農家をしていた。

私の家のあたりは鍋沢家が三軒まとまって住んでいた。サシカウク エカシ sasikauk ekasi の家(鍋沢元蔵家)の隣に、その妹のテク tek というばあさん、そのすぐ隣にまた弟が住んでいたが、顔は覚えていない。その連れ合いのばあさんがいて、白髪頭の神降ろしをやるばあさんであった。痛くなったら、呼んで、揉んで貰ってさすってもらうと治ったのが不思議で今でも弟とよく話す。トゥス tusu をやるフチ huci だった。レタルベ フチ retarpe huci (白髪のばあさん)と呼んだ。レタル retar は白いという意味。

おばあちゃんの家は、戸口から炉に土足で入れるようになっていた。炉と戸口の間に仕切りがなかった。

母親の親戚が住んでいるコタンで、ウヨブペコタン uyoppe kotan というところがあった。そこには従兄弟やはとこがいた。うちのばあさんの親戚が多い。ばあさんの弟がそのコタンコロエカシ kotan kor ekasi (村長)であった。父がコタンコロクルの系統かどうかよく知らない。

新平賀にはいろいろな所から人が集まっていた。鳩沢、平賀、鍋沢姓の人々がいた。給与地

をもらって家を建てて住んでいた。それがいまみんな死に絶えて、子孫はほうほうに散らばっている。

[佐伯ハマ氏]

10-4-4. 地理・地名

スウンコツ suunkot に私の先祖がいた。スウンコツは平賀のすぐ上手にある。ス su は鍋のこと。鍋ひっかかっていたからそうついたらしい。ニナチミ ninacimi というバス停留所のところ。ニナは、ニマ nima (こね鉢) のことらしい。

鍋沢という名は、鍋がひっかかっていたから、鍋沢とつけたのだ。スウンコツ suunkot から鍋沢と名付けたのだ。父親からそうきいた。

[佐伯ハマ氏]